

第3章

女子部のあゆみ



女子部のあゆみ

昭和35年卒

大澤 恵子

Keiko Oosawa

バドミントン部の創立70周年、おめでと
うございます。この歴史ある慶応義塾体育会
バドミントン部に、女子部が出来た頃の事を
書かせて頂くことに致しました。

昭和28年、それ迄男子部員ばかりだった
中に初めて女子部員が入られ、お互いに戸惑
い乍らの部活動が始まりました。私が
昭和31年にバドミントン部に入らせて頂い
た頃、二年先輩(大学三年)に女子部員が三
人いらっしゃって、リーグ戦ではいつも優勝、
準優勝をされ、私達も暗れがましい思いをさ
せて頂きました。

先づポイントゲッターの高橋佳子先輩、コ
ースを見極めたテンポの速い試合運びで、
勝ち点を取って行かれました。残念ながら若
くして他界されましたが、現在のラケットや
シャトルを使って頂いたら、オグシオさん達
とも良い試合をされたのではと思っています。

ギャプテンの佐藤千鶴子先輩は、高橋さん
とダブルスを組んで勝ち点を取られる一方、

LIFE C156

20×20

どんな天候の時も必ず練習に采られていて、ニコニコ笑っているから私達を迎えて下さり、コートサイドから常に声をかけていて下さいました。その存在で私達がどんなに安心し、やる気を出すことが出来たか知りません。

学連を担当して居られるに藤林洋子先輩は、文学部独文科のハードスケジールを立派にこなしているから、夏に日吉で行われたトレーニングや長距離走では疲れを感じさせないパワーで頑張られました。そして私達下級生には気さくに対応して下さい、フワシヨンの様な存在でした。又、お茶の水の学連にもマメに顔を出されて主張すべき事ははっきりと言はれ縁の下のカ持ちの役を果たして居られました。

以上三人のそれぞれのお立場でのスペシャリストに依り、創立当時の女子バドミントン部が支えられていました事を懐しく思い出し、心から感謝いたしております。

体育会バドミントン部の益々の発展を、心よりお祈り申し上げます。

LIFE C156

20×20

昭和35年卒 文澤恵子



私の宝物

昭和45年卒 広本 鮎子 (旧姓 富田) *Ayuko Hiromoto*

兵藤先生が、私達初心者相手に遊んで下さったのは、先生が何歳位だったのでしょか？18歳そこそこの我々には、ヨタヨタと（スママセン）随分のお年にお見受けしたのですが・・・今現在の私の姿そのままです。

当時バドミントン人口が皆無だった南紀白浜にあるここ旧日置川町において、教室が開催されると聞き中学校の体育館に入って見ると、コートラインも無く、シャトルもナイロンコック！？？つつい手ほどもきをしているうちに、先生？とか呼ばれて30年余り。最近では近隣の町々でも愛好者が増えて少しは、シャトルの売上に貢献したのではと自負しています。ただ過疎地のわが町では、部員が少なくなる一方で、辞めるに辞められず、今ではクリヤーが飛ばずサーブとドロップのみですが、週2回一応ラケットを握っています。

部員が少ないと云えば、昭和41年の春、何を思ったのか記念館に足を踏み入れたのです。当時4年生だった今は亡き小池先輩が、「体育会に入部すれば1年間体育の授業に出なくても単位は貰えるぞ」の一言。運動大嫌い人間が体育会という所がどういう場所かも知らずに入部。3～4年の女子部員は0名。2年生が2名と1年生は私を含めて5名。小池女子コーチは、運動オンチでも何でも良かったのです。兎に角リーグ戦には4名必要なのですから・・・。

10日間の富山夏合宿前の日吉での8日間魔のトレーニング。・・・グラウンド10周に40分もかかり、マムシ谷などは？？？・・・毎日あの並木道を通って帰る道すがら、翌日の休む理由が何かないかとばかり考えていました。そのような私でも、部員が少なく、イレギュラーでも捨て駒として、幸か不幸か試合に出なくてはならなかったのです。

私には、大事な宝物が二つあります。一つは、小池先輩が卒業の時、我々女子部員に先輩の体育会への思いと一年間の毎日の練習内容や出欠表等すべて書かれたノートをコピーして約80頁の冊子にして各自に下さいました。～コピー機なるものがやっと出始めた時代でした～

もう一つは、私達が卒業の時、井上先輩から私共の4年間の全試合の日時 場所 対戦相手の氏名まですべてを、しかも3人分を丁寧にラインどりして井上先輩自身の手書きで一字一

字丁寧に書いてくださったのを送別会の日各自に手渡して下さいました。

H20年小池先輩がお亡くなりになり、久々にというか、毎日の生活に追われ戸棚に入ったままになっていたこの2冊を手にししました。40年前の記憶が昨日の事のように甦り、改めてお二人の部員に対する並々ならぬご好意に接し、感無量の思いに浸りました。

故小池先輩が亡くなる4～5年前、先輩からの召集命令で始まった前後の代での1泊泊まりの集まりが、その後も続いています。当時の前後女子メンバーにこの2冊をコピーして渡しました。還暦を過ぎ、皆其々の40年の月日が流れましたが、その時ばかりは、青春時代にタイムスリップするのです。

私が、今なお、バドミントンを続けられるのは、周囲に恵まれたおかげですが、私の人生にとって、日吉での4年間の部活経験が単にバドミントンのみならず、その後の生活の根幹になっていたことを強く感じつつ、今日もこの片田舎の体育館でヨタヨタと遊んでいます。



ZEROからの4年間

昭和45年卒

伊丹 桂子 *Keiko Itami*

創立70周年おめでとうございます。

創部当時や黄金時代その頃のことはわかりませんが、とにかく私が入部した時は、三～四年生はいなくて、二年生が2名、一年生が5名でした。当時4年で女子コーチの故小池善英先輩から、いつも、「水野美奈子先輩が女子部員一人になっても男子の中で頑張っていたんだ。だから女子部を潰すことができないんだ」と耳にタコができるほど聞かされました。部員がいなくて試合に出られず、当時4部までの関東リーグで、その最下位になってしまったと聞きました。S41年春女子高出身の経験者が4名揃い4部2位になり、私たちが4年のS44年秋季リーグ戦では2部の5位。つまり一度も下がることなく一段ずつ上りました。しかしそれまでの行程は、色々ありました。2年生の時は、新入部員が入らず、その上辞める部員もいて、試合には助っ人を頼む時もありました。3年の時は、高校からの経験者と大学から初めてといういわゆるイレギュラーとが半々ぐらいでやっと女子部の形が整いました。それまでは男子のお飾り的存在でおんぶに抱っこ状態でしたが、それも当たり前前のようになっていて、4年の時いざ自立しなさいと言われるとどうして良いかわからないままでした。最近はどうなのでしょう？

S44年春季リーグ戦のメンバーを見ると、女子高出身が一人で後の4人は私も含め全員イレ

ギュラーだったのに、幸運にも3部2位を維持できたのでした。その上何故か2部に空席ができ、1位は自動昇格。2位の慶応が早大と入替戦だったのに早稲田が棄権し、2部昇格を果たせたのです。本当にラッキーでした。そして秋季リーグ戦は、私たちにとっては初めてで最後の2部の舞台でしたが、何とか降格することなく、2部5位を獲得したのでした。

卒業して43年経った今、バドミントン部に入部してもたらしてくれたものが、沢山あることがわかります。地域の女性のバドミントンクラブで30年プレーをしてきましたが、膝痛のため引退してウォーキングに転向。ここでもバドで鍛えた心臓と足であつという間に健脚と言われるようになり、初級から中級程度の登山を楽しんでいます。

今も職場で初心者の人たちとバドミントンをすることがあり、色々な質問をされます。何を聞かれても即答して「尊敬」されたりしています。これもゼロから始めて4年間辞めなかったこと。そしてバドミントン部の先輩たちのアドバイスのシャワーをたくさん浴びてきたお陰です。学生時代には、教えて頂いても理解できなかったことが、10年20年経って「あつ、このことを言っていたんだ」とひらめく感慨深い一瞬が多々ありました。



小さな出会い・大きな財産

昭和46年卒

川崎 美耶 *Kawasaki Miya*

創部70周年おめでとうございます。塾附属高出身の私は、高校2年の夏休み前友人に部員の少なかったバドミントン部への誘いを受けたのが小さな出会いでした。誘われる佯軽い気持ちで入部してしまいました。大学に進学すると、水野先輩の卒業や退部された方があり部員数も2名のみとなりリーグ戦も棄権せざるを得ない最悪の事態に陥っていました。大学に行ったら、同好会で楽しくスキーやテニスにと

考えクラブ選びを迷っていた私でしたが吉田監督や某先輩の「部員が足りないのでリーグ戦だけでも出て欲しい」と脅迫？にも似た泣き落とし？に負け入部を決意しました。ここから、私が体育会バドミントン部と本格的に向き合うスタートになりました。入学時4部(5部はありませんでした)の再弱チームでしたが、卒業時には2部3位にまで成長させていただきました。これも、片石先輩を初め水野先輩・故

小池（善）先輩・練習相手になって下さった男子部員の皆様のご協力・ご尽力あってこそと感謝しております。一年生ながら早慶戦初出場させていただきダブルスで一勝できた事は忘れられません。春秋のリーグ戦・新人戦・東日本大会・インカレ団体戦・個人戦と今でも忘れられない貴重な体験も沢山させていただきました。一年生の夏の富山合宿では、朝・午前・午後の練習、2：1のコート3面回しシャトルにノータッチしたらその場でコート一周うさぎ跳び・・・。女子は、毎日夕食後に夜間練習後の夜食用のおにぎり作り。おにぎりの中にスイカの種を入れ上級生に怒られた事。今では懐かしい思い出です。岐阜での合宿は塾の先輩でもあられた揖斐川電工の社長様のご好意で社員寮をお借りして合宿。上級生は体育館までは自転車や車で往復でしたが、私たちは往復ランニングで辛かった事。当時、日本の女子はユーバー杯初参加で優勝と言う快挙を成し遂げ国内でも女子のバドミントンがスポーツとして認識されるきっかけとなり、日本女子体育大学・日本体育大学・東京女子体育大学等学生の中からもたくさんのユーバー杯選手が活躍していました。ユーバー杯主将の中山（旧高木）紀子さん他何名かの方々が練習相手（勿論男子だけ）に体育館に足を運んで下さり、ダブルスでの男子との対決が印象に残っています。各合

宿地では、バドミントン部の先輩に限らず塾の諸先輩方の温かいご支援や差し入れ・またある時は部員全員を食事にご招待いただいたり・・・。お世話になった塾の諸先輩方には、改めてこの場をお借りして御礼申し上げます。今後、技術的なお手伝いはできませんが一貫教育のメリットを生かし母校の幼稚舎生にもバドミントンの面白さを知ってもらえるようお手伝いできればとも思っております。7～8年前には、故小池（善）先輩の提案で富山合宿の参加者が富山に集合、思い出話に花が咲きました。その後、熱海・鎌倉・千葉と有志10～15名が集まり一泊旅行を楽しんでおります。又、昭和22年生まれの体育会仲間が還暦を迎えた年に、竹田恒和（現JOC会長）氏を会長に迎え同期会を発足し、隔年例会を行い情報交換の場にもなっております。このように、バドミントンに出会えた事でたくさんの大きな財産をいただきました。思う儘に筆を走らせていただきましたが、何しろ40年前の事で多々記憶違いがあると思っておりますがご許してください。最後に、横浜YMCAの体育館で行われていたバドミントンと言うスポーツを他大学に先駆け創部、塾体育会への加盟にご尽力いただきました故兵藤先生初め諸先輩方に改めてそのご尽力に感謝しつつ、今後ますますの部の発展をお祈り申し上げます。



1969年早慶定期戦 於日吉



支えられてきた女子バドミントン部

昭和51年卒 福山 節子 (旧姓 菱山) *Setsuko Fukuyama*

創部70周年、おめでとうございます。

日本の大学で一番古いバドミントン部。女子はいつ発足したのでしょうか。

『慶応バドミントン部50周年史』を探し出して調べてみると、「女子部38年の足跡」という章がありました。なんと、私が生まれた年の昭和29年発足ということがわかり、驚きました。今年で58年！

次に思ったことは、この58年間、女子部員が継続して入部し、歩んできたのだろうか？ということでした。バドミントン部の名簿で調べてみたくなり、名簿の始めから調べてみました。昭和37年から40年までと、42年、43年、45年、49年、50年に女子部員の名前がありませんでした。やはり女子部は、とぎれとぎれの少数部員により、58年間引き継がれ、よく廃部にならずに続いてきたと感心しました。

私自身のことを振り返ってみても、バドミントン部との出会いは偶然だったのです。バドミントンを高校の時にやっていたわけではなく、日吉の駅に行く途中の並木道でバドミントン部の方が勧誘していて、話を聞いた日の午後、記念館へ行ったのがバドミントン部との出会いでした。並木道で部の方に会わなければ入部していなかったと思います。

入部当時は、4年生2人、2年生1人と私たち1年生4人(2年時には2人になる)でした。少ない女子部員でしたが、一面をもらい、とても親切に教えてくださったのを思い出します。トレーニングは男子と一緒に厳しかったので、かなりつらい練習でしたが、何か充実感があり、技も、体力もかなりのスピードで身につけてきました。

1年生の時のリーグ戦で、シングルス3つ、ダブルス2つは今と同じなので、1年の私も試合に出ることになりました。その時は大変だったと思いますが、当時の思い出としては、「苦労した」とか「辛かった」という思いはありません。スマッシュが決まった時の爽快感、粘り強く闘ったといった思い出だけが残っています。「努力を重ねれば結果は後からついてくる。」ということを実感していたと思います。

一番困ったのは、3年の時でした。1学年上のYさんが途中で退部されてしまったので、3年2人、2年1人の3人になってしまったので

す。リーグ戦には4人いないと出場できなかったもので、女子校の時バドミントン部に所属していたクラスメイトのWさんに入ってもらい、何とかリーグ戦を乗り越えました。しかも、その少ないメンバーでも秋に3部で優勝し、2部との入れ替え戦にチャレンジできたことは、忘れられない思い出です。少ない人数でも男子と一緒にトレーニングに励み、男子とゲーム練習をしてもらったことで、力をつけることができたのだと思います。

その当時、まむし谷の階段を友だちを背負って上がるというトレーニングで、足の筋肉痛になり、次の日、駅の階段を手すりにつかまって、やっとあがって、日吉の練習に向かったことも、今では懐かしい思い出です。また、体育館での練習の後、夕方薄暗くなってから、日吉の400mグラウンドを10周もして家に帰ると9時過ぎだったと思います。帰宅後、すぐには夕食を食べる気がなく、入浴してから少し食べた記憶があります。その後、授業のためのレポートを書いたり、ノート整理をしたりと大変なこともありましたが、今では懐かしく思い出すことばかりです。

4年生では、最後の関東学生選手権Bブロックですが、シングルスで決勝まで進み、大きな駒沢体育館でドキドキしながら試合をしたこと(2位でしたが)ダブルスで渡辺さんと3位になったことは、最後の思い出となっています。

4年間でこのような力を身につけることができたのは、男子が女子を重荷とせず、共に練習に加えて下さったからだだと思います。今思うと迷惑なこともあったかもしれませんが、とても感謝しています。また、沢山のOB、OGの方々にもご指導や励ましの言葉をかけていただいたことで、女子の力が向上したと思っています。OB、OG、男子に支えられ、女子部はとぎれそうになりながらも、今日まで継続してこられたのだと、今更のように感動しております。

私が4年間のバドミントン部の活動を通して得たものは、体力だけではありません。これまで支えてくださったOB、OGや共に練習に励み汗や涙を流した仲間という素晴らしい財産。また、私は33年間教師をしていましたが、子どもたちに学習やスポーツ、音楽といったこ

とを指導する中でも、目標を見つけ、日々、繰り返し努力することの大切さや達成したときの喜びを自分自身の体験から真心を込めて言葉がけし、喜びを味わわせることができました。また、長い間、仕事と育児、家事を両立できたことも、学生時代に学問とバドミントンの両立をしてきたことが土台となっていたと思います。

大学からバドミントンを始めた現役もいる

と思いますが、4年間目標を持って努力を重ねれば、Bブロックで優勝することは不可能ではありません。ぜひチャレンジしてください。現役の皆さんが「文武両道」の精神のもと、小泉信三先生の「練習は不可能を可能にする」という言葉を忘れず、日々精進し、女子部、いや慶応バドミントン部が益々発展しますことを期待して、筆を置きます。



たかがバドミントン、されどバドミントン！！

昭和55年卒 茂木 百合 (旧姓 中 *Yuri Motegi*)
姓)

初めてラケットを握ってから、43年余りの年月が流れました。そして私は今でもラケットを振っています。クリアーは飛ばなくなり、スマッシュもスマッシュと呼べなくなっても懲りずに打ち続けています。まさかこんなに長い年月バドミントンをやる事になるとは大学時代には夢にも思っていませんでした。そしてこうして年月が過ぎた今でも慶応義塾大学の体育会バドミントン部で過ごした4年間は、私の中で色あせる事なく輝き続けています。あの練習に明け暮れた毎日が私の人生の土台になっていると言っても過言ではありません。丈夫な身体とめげない精神力、逆境に負けない忍耐力・・・そして勝利する喜び、負ける悔しさを知り、人の繋がりの大切さも学んだように思います。

現役時代の思い出は、50年史の時に書かせていただいたので、今回は卒業後の事を振り返ってみたいと思います。私は卒業後しばらく郷里の愛媛に帰っていました。その時に国体の予選があり、栃木県で開催された国体に出場する事が出来ました。結果は残せませんでした。華やかなお祭りのような試合で、良き思い出です。その後結婚し、しばらくは主人とも仲良く(?)バドミントンをやる機会がありました。埼玉や東京にいた頃は、(故)石田さん(S.32)、(故)江井さん(S.33)はじめ、OGの片石さん(S.33)にも大変お世話になりました。学生のバドミントンとは違うバドミントンの楽しさを教えていただきました。それから主人の仕事の転勤であちこちに行きましたが、バドミントンのお蔭でどこへ行っても友達や居場所を作る事が出来ました。日本のあちこちにいる

バド友は、私の宝物です。そしてOBやOG、後輩達に会う度に、体育会に入っていて良かった・・・と実感しています。

全日本シニア大会、全国家庭婦人(今は全日本レディースと言うのですが・・・)大会、地方のローカル大会・・・子育てをしながら、数えきれない位試合にも出ました。現役時代はとにかく勝って結果を出さないといけないのが体育会だ・・・と言われ続けていたのを時々思い出します。でも現役の頃はこんなに練習したから負けたくない！>と言えるくらい練習に打ち込めた幸せな時代でした。ルールがラリーポイント制に変わってからは、ミスをしなないようにますます練習しないといけなくなってきています。学生や実業団でやっていた人が30歳位から始めた人に負ける事もあります。試合で実力以上の力を出す人達にも会いました。彼女達にはミスをしないうる集中力はもちろん、最後まであきらめない粘り強さ、相手の弱点を見つけ徹底的に狙う分析力があつたりします。こういう事が試合に勝つ為に必要ですよ。悲しいかな、あちこちガタのきている私にはもうそんなバドミントンが出来ません。現役の皆さんには、是非そんなバドミントンをして欲しいと思います。自分に厳しく、目標を持って、もう少し頑張れたかもしれない・・・という悔いの残らない練習をして下さい。今やっている事が必ず未来に繋がっていきます。一生懸命頑張って勝つ楽しさを、是非味わって欲しいと思います。

私は今、初心者の方の指導のお手伝いをしています。

いろいろなフォームで無心にシャトルを追

う姿、羽つきのような打ち方をしていたのが、だんだん上手になってクリアー、ドロップ、スマッシュ・・・が打てるようになってバドミントンにはまっていく人達と過ごす時間を楽しんでいます。1人でも多くの人にバドミントンを好きになってもらいたいと思ひながら教え

ています。OB、OGの皆さまも70周年を機に、もう1度ラケットを握ってみませんか？そして日吉にも足を運びましょう！OB、OG、現役そして塾高、女子高が一丸となって頑張ればきっと良い結果に繋がると信じています。



オンナの120分

昭和60年卒

池田 登志 *Toshiko Ikeda*



「イケメンの男の子！」「フィギュアスケートの選手！」「やっぱり自分！！」「さぼてん！？」・・・自己紹介の代わりに、幹事が気ままに出す「お題」に答えていただくことからこの会は始まります。これらは一昨年、生まれ変わったら何になりたいかという質問の迷答珍答です。昨年のお題は、会ってみたい人。「マイケル・ジャクソン」「福澤先生（塾生の鑑！）」「過去の自分（に会ってカツを入れてやりたい！）」「ダンナより慕わしい人（ええっ！）」つつこみあり笑いあり、のっけから大変な賑やかさです。

昨今女子会なるものが流行っていますが、流行の最先端に行く我が部の先輩達、S33年卒片石さん、S35年卒大澤さん、S36年卒水谷さんが中心になって、平成10年（1998年）にこのOG懇親会を発足なさいました。家庭に入って、忙しく外出しにくい期間があり、ふと気づくとバドミントン部から随分離れてしまった。いきなりOB総会や試合会場に行くのも何だか敷居が高い。というご自身達の経験から、女性だけで気楽に集まる会の開催を思い立たれたと伺いました。女性同士の会ということで大学女子部員も招待し、最近では女子高生にも声をかけて参会してもらっています。

5年ほど前に、「お若い方達にお願いしたいワ」との仰せによって、お若くもないのですが

私共S60年卒組が幹事をお引き受けして今日に至ります。実は、幹事とは名ばかりで、開会のお題を出すだけ。取り仕切るまでもなく、「久しぶり！」と気分を若返らせるOG達、OGのちょいと得意気な昔話に聞き入る学生、日頃あまり話をする機会のない大学生やOGにあれこれ質問する女子高生、お題の答えをタネに盛り上がり、はたまた美味しいもの、旅行、就職相談・・・etc. あちらでもこちらでも、色とりどりの話の花が満開になります。当初、OGが旧交を温める場として始まった会ですが、学生同士がゆっくり語り合ったり、「あの会が體育会に入る動機の一つになった」という女子高出身者が出てきたり、思いがけない副産物も生まれています。リラックスムードの効力でしょうか。

前述のような経緯で始まった会ですので、あえて部の年中行事には数えず、あえて目的を掲げず、話題も定めず、日時も幹事の勝手な都合で決めてゆるゆると続けております。肩の力を抜いて「ただいま」と家に帰るような、心和むひと時を過ごせればそれでいい、と思います。

S30年代の先輩方が、女子で初めての部員になられてから五十有余年。私共はその子供世代、学生達は孫世代、途絶えることなく部が受け継がれてきました。これからも手を携え心を寄せ合って、どんな谷も山も越えていかれることを願っております。

会の写真は載せないのか、って？毎度カメラは用意するのです。しかし・・・。

着席したとたんにおしゃべりに夢中、スパゲッティの取り分けも忙しく、そうこうする内に「あのう、そろそろお時間です」とそそくさと店を出る羽目になり、結局写真は撮らずじまい。時代は変わりバドミントンのルールも変わりましたが、女性のおしゃべり好きは世代を超えた不変の法則のようです。



軸足

平成13年卒 黒沢 直子 (旧姓 岩部) *Naoko Kurosawa*

2009年に第一子を出産。1年の育児休業を経て、関西へ転勤・仕事復帰してもうすぐ2年になる。仕事・家事・育児の生活スタイルが習慣化してきたり、子どもが自分でできることが少しずつ増えてきたり、夜ぐっすり眠ってくれるようになってきたり。体力的にも精神的にも子育てに少し余裕ができてきて、高まる想いがあった。

「何かに没頭したい。」

会社の業務時間短縮制度を利用し、毎日16:30に終業。打ち合わせを途中で退席することもしばしばで不完全燃焼。帰宅後も休日も、子ども中心の生活。

子育てへの余裕ができてきたからこそだが、そろそろ子ども中心の生活から抜け出し、何かに没頭したいと思うようになった。しかし、なかなか状況が変わらないことに苛立ち・焦りも募る。育児奮闘中に比べて明らかに今の方が不満が高まっている自分に驚き、しばし考えてみた。「自分にとって大切なものは何なのか?」「自分の最優先事項は何なのか?」「自分の軸足は何なのか?」

振り返ると、中学・高校時代の軸足は「部活＝バドミントン」だった。部活中心の生活に一切不満がなかったわけではないが、自分の中で部活が軸足にあったからこそ、それ以外が制限されても最優先すべきは部活で、自分の選択した道だと納得していたのだと思う。

次いで大学時代。特に1年生の頃は軸足がぶれまくっていた。あるときは、部活のせいで勉強ができない、旅行できないと不満を持ち、あるときは、授業のせいで部活ができないと不満を持った。軸足がないから、日々の制限に自分の選択であることの責任感などなく不満ばかりで精神衛生上もよろしくない毎日だった。

社会に出てからの軸足は「仕事」。そして新しい家族を築いている今、軸足は何なのか?就職や結婚、出産、退職などによって生活環境が変わるとともに「軸足」も変わると思う。ただそれは、夫・妻・父・母・恋人・友人・上司・部下など生活のあらゆる場面で立場・役割が変われど、変わらない「軸足」でなければ自分の判断・行動がぶれる。自分の選択に主体性がなくなる。

いろいろ考える中で、今の私にとっての軸足

は「家族」だと思いつつある。子どもが自立・自律するまで、夫婦で協力して責任を持ってサポートするのが今の私の軸足なのだ。その軸足に従って、判断・行動していきたいと思う。最近高まっていた想いも「何かしたいけどできない」のではなく、自分の軸足に立ち返って、「今はその時ではない」と判断し、モヤモヤもすっきり。

みなさんの「軸足」は何ですか?

